

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
ワラハンドクラブ・キキ		令和7年1月20日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	必要な活動に応じて、エリアを設定したり時間調整しながらスペースを確保している。	ガイドラインにある子どもが生活する空間に必要な「静養スペース」「静かな遊びのできる空間」「雨天時等の遊びができる空間」の検討。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	5	2	下校時の送迎専門スタッフを配置し、支援スタッフを確保するよう努めている。	学校の下校時間が重なったり、子どもの状態によっては職員配置が少ないと感じることがある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	現在利用されているお子様に合わせて対応している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1	事業所の老築化もあり、都度修繕しながら支援スペースを確保している。	生活空間の清掃面の改善を図っていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		必要に応じて、都度設定し確保している。	一つのエリアを多目的に使用するのではなく、活動によって決まったエリアを設定するよう検討したい。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）を実施していく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		できる限りの改善を目指していく。	評価表に名前を記入していただき、不明な項目を面談で説明するなど検討していきたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		月に1回チーフと面談を行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	5	現在は予定なし。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		法人内での内部研修と外部研修を設定し参加している。	研修参加による、職員の勤務体制の確保が安定するよう検討が必要である。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		令和6年10月に制作、公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		保護者のニーズや子どもの要望・課題をスタッフ間で確認しながら個別支援計画の作成を行っている。	保護者とのコミュニケーションを密に取りながら的確なニーズを探っていく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		全スタッフから日々のアセスメントを集め支援会議を実施している。	支援提供のための様々な分野のスキルアップに努める。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		支援会議時での周知のほか、全利用者の5領域の目標を一覧にしてスタッフが持参している。	5領域（目標）×全利用者の把握。

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		インフォーマルのアセスメントは、保護者から年度初めに実施し、各活動毎でも実施している。	フォーマルなアセスメントツールが実施できるよう検討する。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		保護者が分りやすいよう具体的な支援内容にするよう心がけている。	「地域支援・地域連携」の欄を設けていないため、来年度は必要に応じて目標を設定していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7			各々が意見を出しやすいよう検討していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		利用時の様子によって、都度見直しを行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		個々の興味・関心のアセスメントから、楽しく活動できるよう計画している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		毎朝、前日の利用の際の課題と具体策をスタッフで検討している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1	毎朝、前日の利用の際の課題と具体策をスタッフで検討しているが、内容によっては都度報告、周知している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		各エリアの担当が記録している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		毎日の申し送りの他に、定期的に進捗確認を行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7		ガイドラインに沿った内容で実施している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		日々の支援の中で、自分で考え決める場面を設定している。	
関係機関や保	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		児童発達支援管理責任者が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1	相談支援専門員と連携しながら、必要に応じて実施している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	1	学校によっては保護者を介して行事予定等をいただいている。 学校の情報が欲しいときは電話連絡をしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	2	相談支援専門員から情報を得ている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	2	依頼があれば情報提供を行う。	

護 者 と の 連 携	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	3	現在はないが、必要に応じて助言等を受けていく。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	3	地域資源の活用や、地域訪問時に交流を図っていく。	各学校で交流は行われている様子である。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	7		毎回参加できている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		連絡帳や送迎時、電話等で情報共有している。	連絡帳の活用がなく、送迎で顔を合わせない保護者との情報共有の仕方を検討する。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		6		研修の情報提供を検討していく。
保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時や、制作時に説明をしている。	契約時や、制作時に説明を実施しているが、個別で定期的な説明を実施する必要がある。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		年に2回、面談時に意向を確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		評価と個別支援計画の説明を面談にて行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		必要に応じて、面談や電話等で対応しており、支援方法などを提案している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	6	保護者会参加のお手紙を配布している。	きょうだい同士の交流する機会は設けたことがないため、今後必要であれば検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		契約時に苦情に関する相談窓口を案内し、適切な対応ができるよう努めている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		毎月、行事予定を配布。3か月毎に広報誌「だいすき」を発行している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		廃棄書類等はシュレッダーを使用して廃棄している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		視覚支援等を用いて意思疎通がスムーズにできるよう努めている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1		今後、検討していく。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		各マニュアルは年1回程度見直し、内容が変わった際には配布している。	

非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		業務継続計画（BCP）を策定しており、年間計画にて避難訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		契約時と毎年4月に保健調査を行い、体質や体調について確認している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	現在のところ対象者なし。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		安全計画に基づいた研修や訓練を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		安全計画作成後、面談にて説明している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		事案が起こった際にヒヤリハット報告書を作成し、会議にて原因と具体策を職員間で周知している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止研修に毎年参加している。毎月チーフマネージャーと職員が面談を行い、業務上の困りごと等の聞き取りを行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	1	身体拘束適正化委員会を設置し指針や規定を整備し、マニュアルを作成している。	